

2008 年度 国際交流報告

薬学研究科国際交流委員長 教授 藤井 聡

平成 20 年 2 月に PPIPCLS を成功させた湯浅博昭教授から国際交流委員長を引き継いだ藤井でございます。微力ながら努力してまいりますので、どうかよろしくお願いいたします。

本年度は交流実績としてはアメリカ合衆国の南カリフォルニア大学(University of Southern California, USC)との間では例年通りに学生の派遣をおこなったほか、教員の派遣も行った。シドニー大学との間では一昨年度、昨年度に引き続いて学生の派遣を実現しようとしたが、シドニー大学では国際交流体制の再構築が行われているとの経緯があり、学生の派遣は実現しなかった。

USC 薬学部への学生派遣(臨床薬学研修)は例年同様に 8 月下旬のおよそ 2 週間(8 月 25 日から 9 月 5 日)の日程で実施された。プログラム内容は導入講義を受けた後、USC の薬学部学生(4 年生)の実習研修に組み込んでもらい、例年どおり大学や地域の病院の薬剤部、薬局等の研修、製薬企業の見学など多様であった。本学からは 5 名の大学院生が参加した。出発前には国際交流委員会で英語の特訓を行い、各自十分な準備をして出発した。詳細は学生の報告書にあるが、米国の薬学生や薬剤師の実際的知識の豊富なことに強い印象を受け、また異文化交流もエンジョイしたようである。この研修には名城大学薬学部、東京薬科大学薬学部、富山大学薬学部、昭和薬科大学の学生も参加しており、これらの国内他大学の学生との交流もある貴重な研修となった。本年度は研修期間中に本学の前田 徹講師(臨床薬学教育研究センター)が USC を訪問し、研修指導に部分的にたずさわりながら、新しい日本の教育制度での実務に関連した教育プログラムの充実のための情報収集や意見交換を行っている。

いままで一般的に国際交流の相手校が比較的中国と欧米に偏っていたが、本年度は水上研究科長のご尽力によりベトナム国立大学ホーチミン校、自然科学部の Ngo Le Van 博士が薬学研究科との交流を図る目的で来訪された。ベトナム国立大学ホーチミン校は自然科学部、人文社会科学部、工学部、経済学部、情報学部等 6 つの学部、45,000 人の学生を要するベトナム最大規模の大学であると同い、新興感染症、創薬資源、生物の多様性などの観点から今後貴重な交流先となる可能性を知ることができた。

名古屋市立大学で国際交流推進センターが中心となって国際交流協定を締結している大学と生命科学分野での交流が行われた International Partnership Symposium on Life Sciences には薬学部からの参加者がシンポジスト 1 名、座長 1 名をはじめ 10 名を数えた。

USC へ学生を派遣した 8 月はちょうど、航空燃料代の高騰で旅費が平成 20 年度より上昇し、学生の負担増が懸念された時期であった。幸いにも、本年度も USC 派遣学生に対し名古屋市大 や 薬学部の同窓会である薬友会から旅費の援助をいただいた。感謝申し上げるとともに、今後も関係各位のご協力とご支援をお願いする次第です。